

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報		担 当 課	広報広聴課	関 係 課	
事業名	No.	2	都市イメージ形成事業(交流支援)		
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款 2 項 1 目 4
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティブロモーション		戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)(4)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(年度～ 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	地域に関わる意欲(推奨・参加・感謝)を高め、地域への愛着の醸成や、主体的な地域への参画を促す。	
事業概要(全体計画)	生駒の魅力を生駒市公式SNSで発信する市民PRチーム「いこまち宣伝部」と、生駒の多様な魅力を認知・体験・発信するマーケットを市民と協働して作る「いこまちマーケット部」の運営	
	事業の対象	主に働き盛り世代 (対象数:)
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績
	▶ いこまち宣伝部 597千円 ▶ いこまちマーケット部 3,665千円	▶ いこまち宣伝部 459千円 (主な内訳)講師・託児謝礼(講師5名、託児事業者2事業者) / 194千円、カメラメンテナンス費 / 101千円 ▶ いこまちマーケット部 3,485千円 (主な内訳)講座等委託 / 3,386千円、消耗品 / 66千円
	事業実施手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()	

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	2,859	4,262	3,944	2,917
12委託料	2,438	3,583	3,485	1,136
14工事請負費	0	0	0	0
18負担金補助及び交付金	0	0	0	0
その他	421	679	459	1,781
財源(千円)	2,859	4,262	3,944	2,917
特定財源	0	0	0	1,111
市債	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
一般財源	2,859	4,262	3,944	1,806

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	事業参加の大半が働き盛り世代を占め、地域に関わりたい意欲が大幅に向上した。さらに、事業参加をきっかけに地域で市民活動や起業を行った人もいる。	
KPI	指標名(単位)	指標1 事業参加者の地域関与意欲
	目標値	推奨・参加・感謝意欲ともにスコア50以上
	実績値	推奨・参加・感謝意欲がそれぞれ94・89・97
	目標値と実績値の差分についての理由	事業参加者が本市の多様な魅力を発見・発信した結果、地域に関わる意欲が高まった。
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由
	B	事業参加者の伴走支援は職員が行うなど、費用対効果を意識した事業実施を心掛けた。
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由
	B	生駒で暮らす人の視点での魅力や、「このまちで暮らす喜び」などを事業参加者と何度も対話した。本市のまちづくりの方針も伝え、将来都市像の理解・共感が深まるように努めた。
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由
	B	事業参加者が企画・運営の主体となるように心掛けた。いこまち宣伝部は民間企業の協力を得た事業運営を行った。
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由
	B	事業参加者や関係者にアンケートを行い、結果や分析内容を事業に反映した。
総合評価	評価	評価した根拠・理由
	B	事業参加者に地域への愛着を持ってもらい主体的に関わってもらえた。参加者との対話やアンケートなども行い、行政改革大綱が掲げる行動指針に基づいた事業を実施した。
事業実施上の課題・残された課題	いこまちマーケット部は、令和7年度まで連続講座の開催とマーケットの開催を予定していたが、開催に伴う一定のスキル・ノウハウの蓄積ができたため事業の進め方を検討し、部員の自立開催を進めている。	
今後の取組方針	改善	判断理由 いこまち宣伝部は10周年記念事業を行い、市民と協働した情報発信をさらに進める契機とする。いこまちマーケット部は、講座等は行わず、部員の後方支援を行う。

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報		担 当 課	広報広聴課	関 係 課	全課
事業名	No.	1	都市イメージ形成事業(情報発信)		
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款 2 項 1 目 4
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティブロモーション		戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/> 行政改革大綱 (1)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度~継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(年度~ 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	行政施策や地域情報などを様々なメディアを活用して発信し、市内外の働き盛り世代の人に生駒に興味や関心を持ってもらう。また、「住む」「働く」「楽しむ」が満たされるまちづくりを進めていることへの理解・共感を広げ、来訪意欲や居住・参画意欲の向上を図る。		
事業概要(全体計画)	多様な暮らし方や働き方を実践する市民の暮らし方や、訪れると生駒の雰囲気がわかる店舗・教室・活動といった多様な地域の魅力を様々なメディアを通じて発信する。		
	事業の対象	主に働き盛り世代 (対象数:)	
決算年度の主な取組	当初計画	取組実績	
	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト保守・更新 ▶1,766千円 各種情報発信 ▶1,961千円 	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイト保守・更新 ▶1,651千円 各種情報発信 ▶1,459千円 (主な内訳) SNS広告/424千円、ウェブ広告/303千円、動画制作/407千円、タブロイド(5,000部)/275千円 	
	事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()	

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	3,029	3,727	3,110	6,177
12委託料	2,907	3,598	2,988	6,048
14工事請負費	0	0	0	0
18負担金補助及び交付金	50	50	50	50
その他	72	79	72	79
財源(千円)	3,029	3,727	3,110	6,177
特定財源	1,021	0	0	2,349
市債	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
一般財源	2,008	3,727	3,110	3,828

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ポータルサイトの閲覧数は月間11,000PVほどで推移。SNS(Facebook・Instagram)のフォロワーは年間約700人増加し、生駒の情報に触れる人、興味関心を持つ人を増やしている。		
KPI	指標名(単位)	指標1	指標2
	指標名(単位)	ポータルサイト年間閲覧数	
	目標値	100,000PV(ページビュー)	
	実績値	144,108PV	
目標値と実績値の差分についての理由	市民と協働した記事作成や、多様なメディアの活用、ポータルサイトとSNSの連携などを行った。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	広告媒体やターゲットの精査を行うとともに、タブロイドの配布先の見直しなど、費用対効果の高い事業実施を心掛けた。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	本市の魅力だけでなく、多様な暮らし方・働き方など将来都市像の実現に向けた情報発信に努め、目標を上回る方々にポータルサイトを見ていただいた。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市民PRチーム「いこまち宣伝部」と協働したサイト・SNS運用を心掛けた。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	googleアナリティクスやSNSインサイトなど分析機能を使用し、サイト・SNS運用に活用した。また、Webアンケートを実施し、効果を測定した。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	市内外の働き盛り世代に生駒に興味関心を持ってもらうことができた。市民と協働した情報発信や分析機能を用いたEBPMなど行政改革大綱が掲げる行動指針に基づいた事業を実施した。	
事業実施上の課題・残された課題	本市のイメージは、自然・住宅街・アクセス良好といった地域資源で捉えられることが多いため、本市ならではの多様な暮らし方と住まい方を引き続き発信し、将来都市像の認知と共感を広げる必要がある。		
今後の取組方針	拡大	判断理由	
		市外に向けた情報発信を積極的に行い、生駒市の認知度や来訪意欲の向上を図る。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報		担 当 課	企画政策課	関 係 課	農林課、商工観光課、事業計画課、学研推進課ほか					
事業名	No.	3	道の駅の整備に向けた調査検討業務							
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目	款	2	項	1	目	6
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティブロモーション			戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/>	行政改革大綱		(2)	
根拠法令等							事務区分	自治事務		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R6 年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	雇用就労の機会創出や地域経済循環の促進による産業の活性化、交流人口増加による経済規模の拡大、拠点整備による交流・滞在の場の創出等といった効果が見込まれる道の駅について、基礎調査を実施することにより検討材料を収集する。		
事業概要(全体計画)	多様な視点からまちづくりにおける道の駅の役割を明確にするとともに本市の状況や社会情勢を調査し、道の駅整備の方向性を検討するための基礎調査を実施する。		
	事業の対象	(対象数:)	
決算年度の主な取組	当初計画		取組実績
	【R6補正(繰越)】 委託内容 (1)市域等の現状把握と課題の整理 (2)先進地事例調査 (3)コンセプトの立案 (4)立地条件と規模の整理 (5)施設整備と管理運営手法 等		【R6補正(繰越)】 委託内容 (1)市域等の現状把握と課題の整理 (2)先進地事例調査 (3)コンセプトの立案 (4)立地条件と規模の整理 (5)施設整備と管理運営手法 等
	事業実施手法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	0	4,400	0	0
12委託料		4,400		
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	0	4,400	0	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		4,400		

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	道の駅の整備に向けた調査検討業務については、当初令和6年7月に公告したが応募が無く、業務内容及び予定価格を見直し、令和6年9月に再度公告し、11月に契約を締結した。しかし、業務完了に一定期間を要し、年度内の業務完了が困難であることから、令和7年度に繰越を行った。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)			
目標値			
実績値			
目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識(費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	-	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。	
目的思考(施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	-	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。	
多様な主体との協創(市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	-	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。	
デジタル・データ活用(デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	-	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	-	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。	
事業実施上の課題・残された課題			
今後の取組方針	現状維持	判断理由 道の駅の整備に向けた調査検討業務の結果を踏まえて、道の駅整備の方向性を検討する。	

令和6年度アクションプラン 事業評価シート

1 基本情報		担 当 課	企画政策課	関 係 課	商工観光課 等
事業名	No.	4	大阪・関西万博関連事業		
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目	款 2 項 1 目 6
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティプロモーション		戦略的施策	<input checked="" type="checkbox"/> 行政改革大綱 (2)
根拠法令等				事務区分	自治事務
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度(年度) <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度～継続) <input checked="" type="checkbox"/> 複数年度(R6 年度～ R7 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	催事等への出展に伴う本市の認知度向上や関係人口の増加、市内消費に伴う経済効果等が見込まれる。	
事業概要 (全体計画)	奈良県万博実行委員会及び万博首長連合への参加により、催事等を通じたPRによる本市の認知度向上や関係人口の増加、インバウンドによる地域経済の活性化等に向けて、2025大阪・関西万博の効果の最大化に向けて取組を進める。	
	事業の対象	(対象数:)
決算年度の 主な取組	当初計画	取組実績
	県及び万博首長連合連携負担金 3,000千円 ▶ 機運醸成事業及びパビリオン催事等事業検討	県及び万博首長連合連携負担金 2,900千円 ▶ 機運醸成事業 ・ポスター、チラシ、デジタルサイネージ等の掲示 ・市内周遊NFTスタンプラリー(総DL数 ○件、景品取得数 ○件) ・シティドレッシング(生駒駅周辺) 等 ▶ パビリオン催事等事業検討 ・関西パビリオン催事の検討 ・シグネチャーパビリオン催事の検討 ・打合せにかかる旅費 9千円
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金・補助金 <input type="checkbox"/> その他 ()	

3 事業費・財源内訳

	R5決算	R6予算現額	R6決算(見込)	R7予算
事業費(千円)	0	3,009	2,909	3,212
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金		3,000	2,900	2,900
その他		9	9	312
財源(千円)	0	3,009	2,909	2,900
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		3,009	2,909	2,900

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	催事における観光資源のPRに向けた取り組みの検討や市内周遊スタンプラリーの実施、認知度向上や市域来訪者の増加を図った。	
KPI	指標名(単位)	指標1
	目標値	指標2
	実績値	
	目標値と実績値の差分についての理由	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由
	B	機運醸成事業では、奈良県と連携する企画に積極的に参画することで、負担金に対する費用対効果を高めた。また、奈良先端大と研究の一環での連携によって費用を押さえ、催事に向けた取組の検討を進めることができた。
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由
	B	観光資源のPRに向けた取組の検討や市内周遊NFTスタンプラリーの実施によって、認知度向上や来訪者の増加を図った。
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由
	A	奈良先端大と連携、近鉄GHDや宝山寺等には協力をいただき、催事に向けた取組の検討を進めることができた。
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由
	C	新たな観光資源PRに向けた新たなコンテンツとして、デジタル技術を活用した取組の検討を進めた。
総合評価	評価	評価した根拠・理由
	B	奈良先端大との連携、近鉄GHDや宝山寺等との協力をを行うことで、費用を押さえつつ、予定通りの成果を得ることができた。
事業実施上の課題・残された課題	催事等において、生駒市のPRを行うだけでなく、より多くの来訪者や関係人口の増加に向けた仕組みづくり、自治体出展に向けて作成したコンテンツの万博終了以降の利活用が課題である。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由
		4月や9月に行われる催事等を通じて、効果の最大化を図る。